20（　）年（　）月職員会議資料（小学校版）

**【不登校対策委員会だより No.２】**



**【　夏休みを迎える準備を！　】**

　新年度もあっという間に３か月が経過しようとしています。新しいクラスに慣れ，のびのびと生活する児童もいれば，なかなか慣れずに日々を過ごす児童もいるのではないでしょうか。環境の変化は心のストレスを引き起こす要因の一つです。今後も，児童一人一人の様子を丁寧に観察するように心掛け，楽しい夏休みを迎えられるようにしましょう。

**【 児童の“思い込み”に注意！　】**

　不登校児童の中には「○○しなければならない」「○○でなければならない」という思いが強すぎるがゆえに登校できなくなる児童もいます。ちょっとした思い込みや論理の飛躍が，自分の思考や行動を縛ってしまうのです。そんな時，教師側としては「こんな考え方をしたらどう？」と提案し児童の考え方の視野を広げてあげましょう。その場合「こうしなさい」という押し付けにならないよう，児童の思いを十分に聞いた上でこちら側の考えを伝えましょう。

**【　“思い込み”の例　～ 全ての友達に好かれなければ～　】**

事例：掃除をさぼる友人に注意したら「いい子ぶって」と**数人**の男子に反撃された

**↓**

「**みんな**に**好かれていない**ので，もう**学校に行けない**」

**着眼点１：「数人」**のはずなのに，**「みんな」**だと思い込んでいる。

**↓**

**対　応：**本人から話を聞きながら，言い返した**児童の数**を**確認**した。

**↓**

**結　果：**考えが「みんな」から**「一部」**と改まり，気持ちを軽くすることができた。

**着眼点２：「好かれていない」**だけで**「学校に行けない」**と思い込んでいる。

**↓**

**対　応：**本人との話から**「みんなにどう思われているか気になって仕方ない」「全ての友達に好かれなければならない」**という思いがあることが分かった。そこで「全員に好かれることはとても難しい」「大切なことは，全員に好かれることよりも様々な人と仲良くしようとすることだ」ということを伝えた。　　　　　　　　　　　　　　　**↓**

**結　果：**考えを**「全員に好かれていなくても学校に行けないわけではない。自分は自分なりにやっていけばいい」**という考えに修正できた。

（国分康孝・国分久子「育てるカウンセリングによる教室課題対応全書６　不登校」を参考に作成）

　他にも，こんな思い込みが考えられます。

**□ テストで良い点が取れないと，だめな人間だと思われ，周囲に見放されてしまう。**

**□ 何事も人と同じでないといけない。**

**□ 嫌なことでも頼まれたら引き受けないと，嫌われてしまう。**

**□ 教師が言うことは，全て自分を否定する言葉だ。**

****これら以外にも，クラスに在籍する児童が，どんな考えや行動の特徴を持っているかを把握し，事前にどんな対応をするかイメージしておくとスムーズな対応につながります。思い込みによって，心や体が疲れてしまう前に，児童の気持ちが前向きになるような声掛けをしていきましょう。

**【 夏休み明けも，こんな注意を 】**

　児童が楽しみにしている夏休み。しかし，夏休み明けには“宿題”の提出が待っています。もし「宿題を出さないと学校に行けない」という思い込みが強いと，夏休み明けの登校に不安を抱いているかもしれません。もし，いつもは宿題をきちんと出す児童あるいはいつもは明るいのに元気がない子がいたら，その背景に宿題への不安を抱えているかもしれないことを意識するとよいかもしれません。そして，もし宿題が出せないことに悩んでいるのなら「宿題なのだから早く出しなさい」と正論を話すことよりも「何かできない理由があったの？」と話を聞き，一緒に解決策（宿題提出完了までの計画や方法など）を考えてあげるとよいでしょう。

　また，宿題以外にも友人とのトラブルや，成績の不振など児童が抱える不安は他にも考えられます。それが未解決であっても夏休みに入ってしまえば，その不安は忘れられるかもしれません。しかし，夏休みが終わる頃には，再び不安になることが考えられます。夏休み明け1週間ぐらいは，特に児童の様子の変化を見落とさないように気を付けましょう（前回の不登校対策委員会だよりで紹介した，不登校の兆候をチェックしてみるといいと思います）。

なお，不安なことがあっても，担任には話しにくい場合もあると思います。声を掛けてもなかなか答えてくれないと感じた場合は，養護教諭や保護者に協力してもらい，その児童の悩みをうまく引き出してあげましょう。こんな時こそ，チームでの支援が大切ですね。

**【 いじめについて 】**

　最近のいじめは，学校の様子から気付けるものだけでなく，メールやＬＩＮＥ上で行われていることもあり，表面化しにくいのが特徴です。見えないところからいじめに気付くのは非常に難しいですが，早期かつ徹底した対応が必要になります。

いじめを受けている本人は，誰かに相談できるほど心のエネルギーが残っていない可能性があり，それが不登校という形で現れることもあります。だからこそ，児童をよく観察し，夏休み前後で変化がないかを複数の目で確認しましょう。また，保護者には三者面談の際に，気になることがあったら学校へ連絡をもらえるように話をしておきましょう。

***⇒次回，「不登校対策委員会だより」は，（　）月の職員会議で配布する予定です。***

***⇒次回，「不登校対策委員会だより」は８月の職員会議で配布する予定です。***